

ま え が き

中国経済は1979年以降、比較的安定して高度成長を続けている。2006年でその高度成長の期間は27年目となる。日本の高度成長は回復期を除いて50年代中期から始まり1973年で収束するが、その期間の長さは18年であった。これを10年も凌駕した。この間、世界のGDPに占める比率は1979年の1.8%から5%に達し、2005年には英国を追い越し、世界第4位となった。輸出額は2005年に日本を超え、世界第3位となった。外貨準備高も2006年に日本を凌駕し、1兆ドルを超え、世界第1位となった。単品で世界第1位の生産量を誇る品目数は200を下らない。

そこで本書は次の3点を分析目的として設定した。第1は、このような急成長は何故実現されたか、第2は拡大しつつある中国経済は世界経済にどのような影響を与えつつあるか、第3は世界経済との相互依存が深まるにつれて、中間財、資源、原料の国内生産と供給にどのような変化を生み出しているかである。

最初の分析目的では、あまたある要因のなかから、マクロレベルの資本蓄積と投資、輸出の急増、この両者に重要な役割を果たした香港の機能の3点に焦点をあてる。まず、マクロレベルの資本蓄積と投資の推移をみて、固定資本投資を支える金融制度がどのような機能を果たしたかをみる。1953年から本格的経済建設に入って以降、途上国のなかではかなり高い投資率を実現する財政金融制度を編み出していた。それが集権体制である。基本的にこの制度を維持しつつ、市場化を進めているため、金融制度改革に遅れがみえ、多くの問題をかかえることとなった。

輸出の急増の分析では、それを担った産業のなかから伝統産業からは繊維・雑貨、中国にとっての新興産業のなかから電機・電子産業をとりあげる。両者の共通面と差異にも着目して分析を行う。

高い投資率の実現と輸出の急増に大きな役割を果たしたのが香港の存在

である。香港の機能について独立した項を設け、それが果たしてきた分析を行う。

第2の分析目的である世界経済への影響については第2章で貿易と国際金融への影響を素描したあと、地域に分けて中国との経済相互依存関係を分析する。その場合、地域の経済発展段階や資源賦存状況の相違から、相互依存関係にかなりの差が出ている。これを重視した分析を行う。第2章、第3章、そして第4章が第2の分析目的に関わる研究である。先に述べた香港の分析は、香港が中国にとって長らく世界経済への唯一の窓口であり、また現在もその重要性は変わっていないことを踏まえ、この第2章のなかに配置した。

第3の分析目的では高度成長が中国の中間財、資源、原料の国内生産と供給にどのような変化を生みつつあるかを分析する。原料部門、素材部門、素材加工部門、最終製品部門のうち、素材加工部門は取り扱わない。したがって、産業機械設備のなかからは対象を選ばない。紙幅の制限からである。中間財からは鉄と化学系素材をとりあげた。両者とも近代工業で最も重要な素材であるからである。資源からはエネルギーと鉄鉱石をとりあげた。また、現代産業を代表する電子工業の重要素材である希少金属資源をとりあげた。希少金属は重要な戦略物質であるからである。

WTO加盟以降、輸入が著増しているものに一次産品がある。農業部門は、生産性が最も低く、なおかつ雇用も最も多い。農業がどう変わるかはきわめて重要な問題である。しかし、これを取り扱うにはゆうに一冊の書物が必要である。このため、輸入が著増している一次産品のみを取り扱うこととした。この範囲からでも農業がもつ問題の一端がうかがい得ると考える。

なお、高度成長がもたらす国内経済の新しい諸問題については当初収録する予定であったが、紙幅の都合上、割愛することとなった。「おわりに」において今後の課題として指摘しておくにとどめる。

本書は2005年8月から2006年9月までの13カ月でまとめたものである。アジア経済研究所新領域研究センター次長である藤崎成昭氏の発案で企画された。一般読者に対し、できるだけ平易にわかりやすく、上であげた三つの課題を説明することに主眼を置いた。研究会の各委員はそれぞれ本務を

もちながら多忙のなかを本書執筆のために時間を削ってもらった。15回にわたって開催した研究会においては、各委員の研究発表に加え、さまざまなテーマで専門家のヒアリングを行った。協力頂いたヒアリング講師の方々は名前をあげることはできないが、御礼申し上げたい。また最新の情報を集めるために現地調査も行った。その際、面談に快く応じてくれた内外の企業、政府関係者、研究者の方々にも心から御礼申し上げたい。

出版にあたり出版業務を担当してくれたのはアジア経済研究所研究支援部の新田淳一氏である。また編集については、(株)弦に担当頂いた。ここに感謝の意を表す。

2007年4月

小島麗逸